

里山体験教室を ふりかえって

主査(林学)
金子 修一



当博物館では、開館以来「湖と人間」というテーマをもとに、「里山」自然と人が共存していた一つの形態に、大きな焦点を当てています。

そんな中、平成12年度から「里山体験教室」という事業が、日野町上駒月の里山を舞台に始まりました。活動目的は、「里山の復活」。人手不足で荒れてしまった里山を、みんなで四季を体感しながら活動し、里山を復活させようというものでした。(活動内容等詳細は「うみんど」17号参照)

五感で里山を体感できるよ

う、楽しく活動できるよう、続けてきた活動も今年で6年目、おかげで写真のように一つの里山が復活する兆しを見せています。これもひとえに、毎年度の参加者や、「里山の会(はしかけグループ)会員皆様の努力によるものです。

来年度からは、さらにその活動を広げるために新しいフィールドでの計画を立てています。これからも、里山が奏でる四季折々の美しさに魅せられながら、「里山」について模索しつつ活動を続けてゆきたいと思えます。来年度はあなたも一緒に活動してみませんか?



後方に見えるような暗い雑木林を伐採し、地帯を明るくしました。今は、植栽方法について説明中

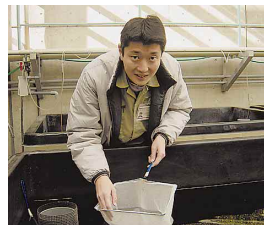


シロヒレタビラ

皆さんはシロヒレタビラという魚をご存知ですか? 琵琶湖にすんでいるタナゴの仲間です。大きさは6〜8センチほどの小魚です。このタナゴのオスは春になると体がうすいメタリックブルー、尻びれの付け根あたりが真っ黒で外縁は真っ白(本当に真っ白!)になります。私が始めてシロヒレタビラを見たのは今から10年前の琵琶湖博物館開館準備の頃で、あまりの美しさに一目惚れしたのを覚えています。

しかし、残念なことに現在の琵琶湖ではほとんどみられなくなっています。私は普段、琵琶湖博物館で水族の飼育管理をしています。人工授精は直径約18cmのガラスシャーレで行い、ふ化した稚魚もシャーレで育てます。1つのシャーレで50匹ぐらいの稚魚(卵)の管理を行い、ピーク時にはそれ

が10個以上ならぶので、たいへんな作業です。(博物館には他にもタナゴの種類を飼育しているのですが、人工授精は毎日水換えを行い、約1ヶ月かけて自分で餌を食べられるようになると大きな水槽に移します。この時が、飼育作業の中で最もうれしい瞬間です。



育ったシロヒレタビラを数えています(保護増殖センターにて)

タナゴに一目惚れ

琵琶湖博物館水族飼育員

御葉袋 聡

こんにちは! 展示交流員です。



子どもたちに大人気の琵琶湖博物館水族展示。50あまりある大小の水槽前での交流員との会話で楽しみも倍増しているようです。

「ソウギョとハクレン」
(愛須交流員)
「外国から来た魚たち」の水槽の魅力を教えてください。

ソウギョ、ハクレンといった大きな魚も正面から見ると、その表情がとてもカワイイことに気づいていただけと思えます。

ハクレンのようなコイ科の魚

私たちは、琵琶湖博物館の案内だけでなく、展示を通してみなさんと交流し、みなさんに身近な自然や生活へ目を向けていただく『かけはし』となっています。どうぞお気軽にお声をかけてください。

には歯がないように見えますね?

そうですね、コイ科魚類は口の中には歯がなくて、そのかわりにのどの奥に咽頭歯という歯を持っています。

魚の歯も、人間のように入れ替わるのですか?

魚も体の成長にあわせて、

魚の歯(咽頭歯)を使っている説明



一生に何回も歯が生え替わるので、水槽の底に抜け落ちた歯を見つかることもあります。人間と違って何百回も歯が生え替わる魚もいます。

「ゲンゴロウをさがそう」
(鴨田交流員)
「里の生き物」コーナーの水槽では、どんな生き物が見られるのでしょうか?

このコーナーでは、ゲンゴロウ、タガメ、ドジョウといった水路やため池でかつて見られ、いつも人とともに生きてきた身近な存在であった生き物たちを展示しています。

ゲンゴロウの魅力は?

ゲンゴロウは泳ぐ姿がとてもユニークで、見ていて楽しい気分させてくれます。来館者の中には、ゲンゴロウの



名前は知っていても実物を見るのは初めてという方も多く、その大きさに驚かれます。

ゲンゴロウについて来館者とどんなお話をされているのですか?

年配の方からは、昔ゲンゴロウをつかまえて、足にひもをつけて遊んだといった思い出話も聞かせていただけます。そのようなお話を聞くと、もう一度「里の生き物」たちがたくさん見られる環境が戻ってくるためには、私たちは何をしなければいけないのかを考えさせられます。

交流ノート